

### 取組の背景

外国樹種見本林は、1898年、外国産トウヒ等7種5,400本を御料上川試験場内に移植したことから始まり、現在、約50種類の樹種が植栽されています。また、旭川駅近郊等立地条件に恵まれたレクリエーションの森で、市民等の憩いの場として親しまれています。

平成16年、全本数の16%にあたる約1,000本のヨーロッパトウヒ等が台風18号により被害を受け、翌年から3年間にわたり、多くの旭川市民が参加した見本林再生への各種取組が実施されました。この取組は、遊歩道整備を中心とした地域企業によるCSR活動や生涯学習の場としての利用に受け継がれています。

一方で、再生への取り組みが終了してから15年が経過し、市民の関心が薄れる中、見本林の利用や整備について様々な課題も明らかになってきました。このため、利用実態等を把握し、今後の遊歩道整備等に役立てようと考え、その利用状況等の評価を試みました。

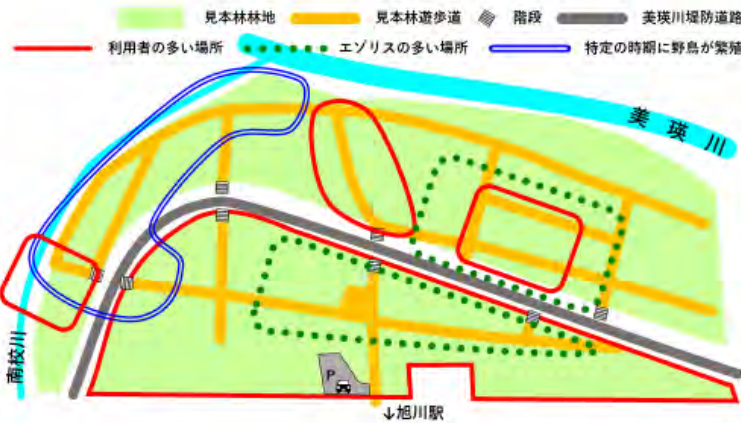


外国樹種見本林入り口

### 取組の内容・成果

**【手法1】**見本林の入口や三浦綾子記念館内等にアンケート箱を設置して、利用者やCSR活動団体に対して、よく利用するルート、整備が必要なルートについてアンケートを実施しました。結果を集計したところ、右図のとおりで、利用頻度や整備の必要性について「高・中・低」の3段階に分類でき、利用頻度の高い箇所とウッドチップ散布箇所とが一致しました。

外国樹種見本林の見取り図



**【手法2】**都市公園では、野生鳥獣とのふれあいを求める市民等が一定数存在することから、利用者と野生鳥獣の関係性を検討するため、スポットセンサス法により、エゾリスと野鳥の個体数調査を実施しました。結果は、左図のとおりで、利用者とエゾリスが確認できる場所は、ほとんど一致していました。また、人慣れしやすいカラ類等鳥類については、全域で確認数に差はありませんでした。

今回の調査等では、【手法1・2】ともほぼ同じ集計結果となり、利用者が多いと推定される箇所は、駐車場や美瑛川堤防道路等からのアクセスが容易な箇所、ウッドチップの散布箇所(歩きやすい)、エゾリス等が多く確認できる箇所(餌付けポイント)に利用者等が集中していることが考えられます。

### 今後の展開

今回の結果を基に、多様な目的あるいは観光目的で利用が多いエリアについては、ウッドチップ散布や周囲草刈りなど利用目的に適した継続的な整備を行うとともに、枯れ木など危険木が発見された場合は、緊急処理をするなど新たなルール作りを構築していきたいと考えます。

今後においては、より細かな利用者ニーズを把握し整備につなげていくことが必要であり、都市公園としての魅力あふれる見本林を目指していきます。



CSR活動によるウッドチップ散布